

地域と創る安全な歩道空間づくり

中部地方整備局 静岡国道事務所 交通対策課 岡田 豊

1. はじめに

一般国道52号は、静岡市と甲府市を結ぶ広域的幹線道路としての役割に加え、沿道住民の生活道路としての役割を担っている。しかしながら、静岡市清水区小島地区・但沼地区では交通量が多い上、大型車混入率が高く、しかも歩道未設置や狭小幅員区間があり、生活道路として安全・安心な歩行空間が確保されていない状況にある。また、当該区間は住宅等が道路に隣接している箇所が多く、歩道設置のための用地取得が困難であり、計画が全く無い地域でもあることから、歩道整備が延々として進まない状況にある（図1）。

ここで報告する取り組みは、これまで困難とされてきた地域で、歩道整備を推進するために行政と地域が協働で実施したP Iであり、用地買収を伴う歩道整備計画についてワークショップを実施した取り組みである。

本稿では、一般国道52号小島・但沼地区において、計画が全くない状況から、勉強会による問題意識の共有、地域が主体となったワークショップでの議論や意志決定、行政からの整備方法に関する支援策の提案等により、整備計画の策定と短期的に歩道整備する箇所を抽出するまでの過程および得られた結果を報告する。



図1 国道52号小島・但沼地区の状況（狭小な歩行空間、沿道に隣接する住宅等）

2. 国道52号安全対策検討会

まず平成16年度に、静岡国道事務所が管理する国道52号全般を対象として歩行者、自転車利用者の安全確保について行政、地域が認識を共有し、共に連携・協働しながら、対策案を検討するとともに、歩道整備の緊急性が高い箇所を抽出することを目的として国道52号安全対策検討会を実施した。

検討会は、国道52号沿線の各地区の自治会長等、静岡国道事務所、静岡市により構成され、計4回開催した。本検討会では、日頃感じている具体的な危険箇所の抽出作業や危険箇所を対象とした現地視察を行い、それらを平面図にまとめた「ご意見マップ」を作成するとともに、歩道幅員のあり方、歩道整備の緊急性が高い箇所の抽出、対策等について検討した。

この「ご意見マップ」を受け、特に緊急性の高い箇所については、設計を行い平成17年度には対策工事を実施している。



図2 国道52号安全対策検討会実施状況（ご意見マップの作成）

3. 国道52号小島地区・但沼地区歩道整備ワークショップ

平成17年度には、前年度の国道52号安全対策検討会を受けて、特に歩道環境の悪い小島地区・但沼地区において地域特性を考慮した歩道空間の創出を図り、歩道整備ワークショップを実施した。ワークショップは4回実施し、メンバーは自治会や老人会、PTA、婦人会、地権者等で全てこの地区の地元の方である。ワークショップでは下記の目標を掲げて取り組んだ。

- ①道路について勉強することで安全な道路空間について理解を深める。
- ②当該地区の歩道整備における課題を整理し、どのようにしたら歩道が整備できるかを検討するとともに、地域として何をすべきかを考えていただく。
- ③地域として必要な歩道構造の検討と整備計画図を作成する。
- ④早期の整備着手を念頭においた、重要かつ短期的に整備可能な区間を抽出する。
- ⑤歩道整備を完了させるための地域のルール作りを考える。

3. 1 安全な道路空間についての勉強会

ワークショップの目標を達成するためには、メンバーが当該地域の道路状況や問題点を認識し情報共有するとともに、道路や歩道構造の仕組み、考え方を正しく理解することが前提であること望ましいことから、具体の検討を行う前に勉強会を開催した。勉強会の内容を以下に示す。

【勉強会の内容】

- ①国道52号の現状
- ②道路、歩道整備の考え方
- ③国道52号小島・但沼地区の道路構造の現状と問題点
- ④現地ビデオ調査
- ⑤歩道空間確保に関する課題解決の考え方（都市計画区域外において歩道を整備するために用地を確保する方法）

また、歩道構造の検討に際しては、歩行環境を体感できるよう歩道と付帯構造の原寸大の簡易模型を作成し、歩行空間を体感できる環境を提供するなどの工夫をした。

この勉強会では地域の方が熱心に聴講された。歩道整備の必要性と地域として取り組む必要性が総意として確認され、以後の展開を大きく左右した大変有意義な勉強会となった。勉強会で確認された事項を以下に示す。

- ①国道52号の現状の歩行環境は非常に劣悪であり、歩道整備の必要性が高い。
- ②歩道整備空間（用地）を確保するために地域として取り組む必要がある。

【歩道がない・車道・路肩が狭い】

■3. 7KP付近
一側溝のうえが歩道の役割を果たしている
一側溝も狭いため、車と歩行者が近接する

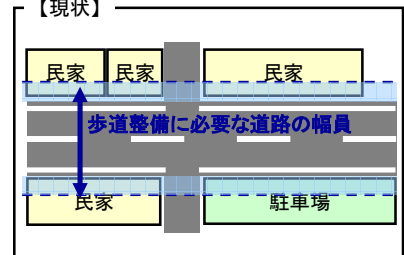


■簡易模型により歩道空間を体験

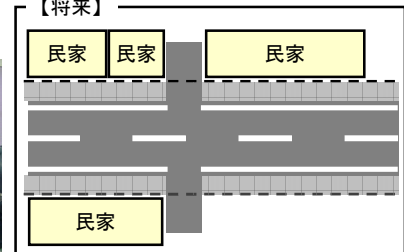


国道52号小島地区・但沼地区の歩道空間確保のために...

【現状】



【将来】



たとえば、家屋の建てかえ時に、少し引いて建てかえるということが考えられます。

図3 勉強会資料の一例

3. 2 静岡国道事務所からの提示事項

地域の協力が得られ極力進捗が図られることを目指し、歩道を整備・維持管理していく役割を担う静岡国道事務所として、当該地域における整備方針（姿勢）をメンバーに提示した。それらを以下に示す。

- ①短区間（50m程度）でも歩道整備が可能である。（歩道の連続性や整備延長にこだわるものでなく、可能なところから整備していく。）
- ②地域が必要とする歩道幅員で整備する。ただし、必要な用地は買収させていただく。
- ③建物が影響する箇所は予算の制約等の観点から直ちに整備することは難しい。建物が無い箇所を整備する。

①については、国道の歩道整備は通常数百メートルを連続して整備しているが、小島・但沼地区では地域状況を鑑み短い延長でも長期間掛けて徐々に整備していく姿勢を示したものである。②については、平地が狭い本地域として沿道の状況も踏まえつつ真に必要な歩道幅員で整備することを示したものである。③は拡幅に伴って建物の補償を要する箇所の整備は行わないという姿勢を示した、予算の制約についての理解を求めたものである。

3. 3 歩道構造の検討および短期的に整備可能な区間の抽出

勉強会により、歩道整備の必要性の認識が高まり、歩道構造の考え方等の情報共有ができた段階で具体的な計画について検討を行った。検討に際しては、地域が主体となって議論、意志決定するワークショップとした。

検討の結果、ファシリテーターより意見が集約され、地域として必要な歩道幅員は2.0m（歩車道の分離は縁石）でメンバーの合意が得られた。

また、地域のメンバーが独自に行った情報収集や自治会が自発的に実施した沿道地権者を含めた会合結果を踏まえ、直ちに整備が可能と考えられる候補区間が抽出された。小島地区で5箇所、但沼地区で2箇所の独立区間であり、各箇所の延長は約50mから200mである。

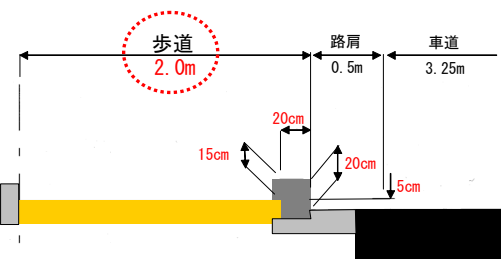


図4 ワークショップにより決定した歩道構造の概略図

3. 4 持続的な歩道整備に向けて

当該地域の歩道整備は長期間にわたることから、この取り組みを継続的に持続させる必要性がメンバーの総意として確認された。また、地域が一丸となって歩道整備に向けて進んでいくため「歩道整備推進協議会」等を地域が設立するなどの取り組みが小島・但沼の両地区から発案された。

これに対し、地域が継続して検討を進めていくための静岡国道事務所の支援として、地域の方が

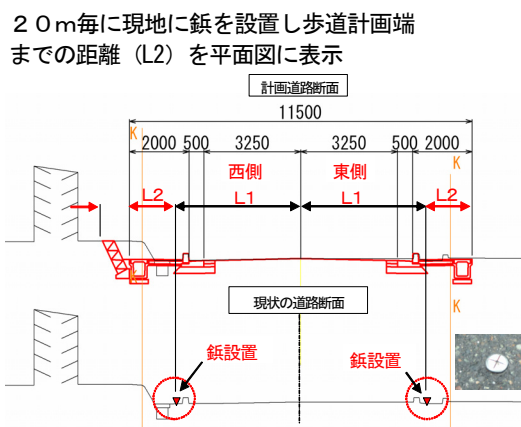




図5 提供資料の一例

誰でも本取り組みの内容や歩道計画の概要について知ることができるよう工夫し、以下に示す資料を作成し、各自治会に提供した。

- ①全体歩道計画平面図
- ②計画歩道端部が現地で概ね確認できる資料（図5）
- ③ワークショップでの検討資料、議事録

4. ワークショップの成果

今回実施したワークショップの内容と結果は前述したとおりであり、当初目標とした項目が十分に達成されたと考える。本ワークショップの主な成果とそれが得られた要因を以下に示す。

ワークショップの主な成果	成果が得られた要因
<ul style="list-style-type: none"> ■安全な道路空間としての歩道の必要性が理解された。 ■地域の総意で決定した歩道整備計画と短期的な整備可能候補区間を抽出した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○勉強会による問題意識の共有 ○整備方法に関する事務所からの提案 ⇒短区間でも整備可能なこと、地域が必要とする歩道幅員で整備すること等の提案により、地域として提案しやすい環境となったこと。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域としてすべきことについて地域のメンバーが考え、実行された。 ⇒自治会が主体となり地権者を招集した会合が実施され、この会合においても歩道整備の必要性と今後地域で検討していくこと（協議会等の設立）の意志統一が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○勉強会が有効に機能 ⇒勉強会により地域の皆が協力しないと歩道整備が進まないことが十分に認識されたこと。 ○ファシリテーターの指導力 ⇒地域を熟知し、地域の人々に信頼されている方をファシリテーターとしたこと。
<p>【ワークショップでの検討を受け、各自治会が主催した地権者会議の状況】</p>	
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">小島地区</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 5px;">地権者の協力を得て、直ぐに整備可能な区間を抽出</div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">但沼地区</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 5px;">勉強会で得た知識を活用し、自治会役員により地権者への説明と質疑応答がなされた。</div> </div>

5. おわりに

一般国道52号の歩道整備の推進に向けて2ヶ年にわたり地域と協働し検討してきた。その結果、安全な道路空間の創出において歩道がいかに必要なのか地域の理解を得ることができた。さらにこの取り組みを契機に、歩道の必要性について地域全体で取り組む姿勢も生まれており、自治会主導で地権者を集めて理解を得るための会合も行っている。

今年度は、詳細設計と用地調査を実施し来年度には工事を行いたい。また、この2ヶ年で築き上げた地域との関係を維持・継続して行くことが重要であると考え。今後、用地取得、工事が進んで行く中でも引き続き課題、問題点について地域と共に考え協働し歩道整備完了に向けて推進して行きたい。